

第1回全国日本高校生韓国語スピーチ大会 銅賞

下関中等教育学校 6年生

片桐 ひより さん

小 学3年生の頃、好きな韓国のアイドルの言葉を理解したいと韓国語の勉強を始めた片桐さん。小学6年生から教室に通い、中等教育学校では韓国の高校生との交流も経験しました。毎日、韓国語の動画を見て、字幕に頼らず、韓国の人が話す自然な韓国語に触れています。

参加者約300人の予選を勝ち抜いて出場した全国日本高校生韓国語スピーチ大会では、続けることの大切さを自

身の経験と重ねてスピーチしました。見事銅賞を受賞しましたが、それでも「大賞もいけると思っていたので、悔しかった」と振り返ります。

卒業後は韓国の大学で観光について学ぶ予定です。「一度、日本を外側から見てみたい」。将来は、韓国語や現地で学んだことを生かし、下関の観光に関わることが目標です。「下関にはすてきなところがいっぱいあるので、もっと国内外の人に伝えたい」と夢を描きます。



▲「最初の一步はすごく大事。やらなくて後悔するより、やって後悔。何でもチャレンジです」



美食のまち下関 食の力で まちを元気に



市長コラム
希望の風
市長の部屋

下関市は来年度から「美食のまち下関」をテーマに、食の力を前面に打ち出したまちづくりを展開していくと、準備を進めています。市内で頑張っている職人や、飲食店の経営者、新鮮な野菜や魚を扱う生産者の皆さんと一緒に、食の力でワクワクするようなまちづくりを進めていきたいと考えています。

は特に秀逸でした。

そんな中、北九州市がみんな大好きお寿司を基に、「すしの都 北九州市」というブランドコンセプトを立ち上げ、先日「世界初！すしサミット in 北九州市」が開催されました。下関市は、ニタリ鯨の尾の身を使った握り寿司を提供し、下関市の水産物の魅力を存分にアピールしてきました。他の自治体も素晴らしい、広島県の鯛や石川県のガスエビ

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。

最近、関門エリアの評価がうなぎ登りです。世界で最も購読されていると言われる米国TIME紙で、リゾナーレ下関が「2026年世界で最も素晴らしい場所」に選定されたこともあり、多くの方が関門エリアにお越しくださっています。そして、下関に観光で訪れる方の大半は、「下関でおいしいものを食べたい」と望んでいることが判明しました。北九州市の武内市長とも会うたびに、どうすれば両市を盛り上げることができるかを話し合っているところです。